

(環境基本計画評価討部会報告)

## 環境基本計画評価検討部会における審議状況について

環境基本計画は、環境保全に関する長期的目標、個別の分野の施策の大綱（基本施策）などを示す環境行政のマスタープランである。

環境基本計画の個別計画である、地球温暖化対策計画、生物多様性プラン及び循環型社会推進基本計画の計画期間が令和2年度末に終了し、それぞれ次期計画が策定されることから、環境基本計画においても、次期個別計画の内容を反映し、修正する必要があるため、環境基本計画評価検討部会において中間見直しの検討を進めており、これまで部会を3回開催した。

### <中間見直しの基本的な考え方>

- 1 構成の大幅な変更は行わず、10の基本施策及び環境指標（客観的指標）については、次期個別計画の内容を反映する。
- 2 次の内容を反映する。
  - ・ 次期「京都市基本計画」の京都の未来像（めざすべき京都の姿）
  - ・ 「第五次環境基本計画（平成30年度～）」の基本的方向性（SDGsを活用し、環境・経済・社会の統合的向上を目指すなど）
  - ・ 持続可能な都市文明の構築を目指す京都宣言（2050年の世界の都市のあるべき姿）
  - ・ SDGsの考え方（環境基本計画とSDGs目標との関連について）
  - ・ 新型コロナウイルス感染症の影響
- 3 環境指標（主観的指標、客観的指標）について、個別計画の反映による修正のほか、新規設定といった見直しについても検討を行う。
  - ・ 主観的指標（市民の実感度に関する指標）  
経年変化を見る必要があるため、できる限り変更は行わない。
  - ・ 客観的指標（施策・事業の目標値）  
個別計画の策定内容を反映させる必要があるため、指標及び数値目標（目標年度）の変更を反映する。

また、長期的目標4「環境保全を総合的に推進するためのひと・しくみづくり」の協働取組の指標（KES認証保有件数）について見直しを行う。

## 1 令和元年度第1回環境基本計画評価検討部会

### (1) 日時・場所、出席者

日 時	令和元年9月12日（木）10時～12時
場 所	京都市役所分庁舎 第4会議室
委 員	出席：小幡部会長，大島委員，窪田委員，桜井委員，千葉委員，中野委員

### (2) 議題

- 「京都市環境基本計画 年次報告書 環境レポート(案) ～平成30年度事業実績～」について
- 京都市環境基本計画（2016～2025）の中間見直しについて

### (3) 主な御意見（中間見直しに関して）

- 世界的な潮流のある中，SDGsの考え方を計画に入れるのは自然な流れであるが，どの程度盛り込んでいくのか。SDGsの達成に向けて取り組んでいくためには市全体として考え，他局の施策との整合性を図る必要がある。
- SDGs達成のために関連性を考えていく上で，世界的に言われていることは，シナジーとトレードオフについて考慮する必要があるということである。例えば，冷房の使用は熱中症の死者を減らす一方，エネルギー消費の面で温暖化対策としてはマイナス効果であるといった事例がある。そのため，総合的な視点が必要となる。
- 京都市にとって，SDGsを政策に取り入れることの意義を明確にする必要がある。

## 2 令和元年度第2回環境基本計画評価検討部会

### (1) 日時・場所、出席者

日 時	令和2年1月30日（木）10時～12時
場 所	京都市役所分庁舎 第1会議室
委 員	出席：小幡部会長，綾野委員，大島委員，大久保委員，千葉委員

### (2) 議題

- 京都市環境基本計画（2016～2025）の中間見直し（案）について
- 環境基本計画長期的目標4の環境指標の見直し（案）について

### (3) 主な御意見

（京都市環境基本計画（2016～2025）の中間見直し（案）について）

- 持続可能な社会を考えるうえで，観光都市として，観光客にも環境に配慮した行動を促すような政策が必要ではないか。これは，都市のイメージ戦略にもなる。
- 防災の視点だけではなく，グリーンインフラや適応策の視点も重要ではないか。

- SDGsの目標16, 17については, 国際的な考え方は, 国内の市民協働の取組が16, 国際的なパートナーシップに該当するものが17であるとされており, 両方の目標を関連目標とした方が良い。

(環境基本計画長期的目標4の環境指標の見直し(案)について)

- 市民, 事業者との協働取組の指標として, 公共交通の取組や地産地消の指標は設定できればよいが, 数値化する指標がなく設定が難しい。
- 協働取組のアウトカム指標の設定は達成度を計ることが難しいので, アウトプットの指標にしても良いのではないかと。

### 3 令和2年度第1回環境基本計画評価検討部会

#### (1) 日時・場所, 出席者

日 時	令和2年7月16日(木) 14時~15時
場 所	京都市役所分庁舎 第4会議室
委 員	出席: 小幡部会長*, 大久保委員*, 大島委員*, 尾崎委員, 千葉委員*, 西岡委員*

※オンライン出席

#### (2) 議題

- 京都市環境基本計画(2016~2025)の中間見直し(案)について

#### (3) 主な御意見

- 新型コロナウイルス感染症の影響は, 観光だけでなく, 社会全般, 住み方自体に係るものであるため, 幅を広げて盛り込む必要がある。
- 新型コロナウイルス対策として実施していることが実は環境にも良いなど, 意味づけをし直すコラムが書ければ良い。
- 長期的目標4の環境指標の1つを, KES 認証保有件数から京都環境賞に変更するのであれば, 環境への関心への高まりとして, 応募数を指標とした方が良い。
- 応募数にすることには賛成だが, 中身も重要と考える。指標とするのは困難であると思うが, 数だけではなく, 活動主体や活動内容の広がりやレーダーチャートで示し, 京都環境賞に係る取組の発展性を可視化できれば良い。
- 地球温暖化対策の「適応策」や生物多様性における「グリーンインフラ」について, 個別の分野の章でそれぞれ記載するのではなく, 例えば, 地球温暖化対策の章で「グリーンインフラ」についても言及することで, 分野横断的に環境政策を推進していくべきである。
- コラムについては, 観光地の商店街での美化活動など, 具体的で身近な新しい事例を拾って紹介することで, 変遷を追うことができるのではないかと。

### 4 今後の予定

令和2年10月 令和2年度第2回環境基本計画評価検討部会

12月 市民意見募集(京都市環境基本計画の中間見直し(案)について)